

25年度の決算の概要



平成26年第3回区議会定例会で、25年度の決算が認定されました。一般会計を中心に、概要をお知らせします。
【問合せ】財政課(本庁舎3階) ☎(5273)4049・ ☒(3209)1178へ。

「新宿区の財政について」冊子にまとめました

区財政の現状と課題を区民の皆さんにお知らせし、今後の財政運営の議論に生かしていただけるよう、冊子を作成しました。10月27日(月)から財政課・特別出張所・区政情報センター(本庁舎1階)で配布するほか、区立図書館で閲覧できます。新宿区ホームページでもご覧いただけます。



基本目標の達成に向けた主な取り組み

25年度は、20年度からの新宿区総合計画に基づく基本目標(まちづくり編6つ・区政運営編2つ)の達成のために策定した第二次実行計画(計画期間/24年度~27年度)の2年目であることから、「将来にわたり健全な区財政の確保を基本に、直面する課題に重点的に取り組み、これからも区民が安心して暮らせる施策を着実に推進する予算」と位置付け、区政が直面する課題に積極的に取り組みました。25年度の主な取り組みは次のとおりです。

まちづくり編

目標1 区民が自治の主体として、考え、行動していけるまち

◎NPOをはじめ地域を支える社会活動団体のネットワークの拡充と情報提供(5716万7千円)

目標2 だれもが人として尊重され、自分らしく成長していけるまち

◎私立認可保育所の整備支援(9億3073万1千円)
◎学校支援体制の充実(1億8600万円)
◎女性の健康支援(2103万9千円)

目標3 安全で安心な、質の高い暮らしを実感できるまち

◎高齢者総合相談センターの機能強化(9099万7千円)
◎障害者入所支援施設の設置促進(1億191万8千円)
◎建築物等耐震化支援事業(9億9299万7千円)
◎災害情報システムの再構築(4322万5千円)

目標4 持続可能な都市と環境を創造するまち

◎区民ふれあいの森の整備(1億46万5千円)
◎中井駅周辺の整備推進(南北自由通路等の整備)(4億6600万7千円)

目標5 まちの記憶を活かした美しい新宿を創造するまち

◎地区計画等のまちづくりルールの策定(3411万8千円)
◎みんなで考える身近な公園の整備(933万8千円)

目標6 多様なライフスタイルが交流し、「新宿らしさ」を創造していくまち

◎漱石山房の復元に向けた取り組み(1億5635万5千円)
◎にぎわいと魅力あふれる商店街支援(9002万6千円)

区政運営編

目標1 好感度一番の区役所の実現

◎全庁情報システムの統合推進(7787万1千円)

目標2 公共サービスのあり方の見直し

◎四谷保健センター等健康推進施設及び新宿東清掃センターの建設(15億4052万1千円)

財政収支

●一般会計・特別会計の財政収支(下表1~3)

25年度は、生活保護費などの扶助費が引き続き増となったものの、企業収益や雇用情勢が改善したことで、特別区民税や特別区交付金などの一般財源が増となり、実質単年度収支(※)は5年ぶりに黒字になりました。

しかし、経常収支比率は24年度に比べて2.4ポイント改善したものの、依然として適正水準を超える86.5%となっており、財政構造が硬直化していることを示しています。

※実質収支から基金の取り崩しと積み立ての影響額と前年度の実質収支を除いたもの

表1 一般会計の財政収支(△は減)

項目	25年度	24年度	増減
歳入総額 A	1334億7960万3千円	1322億5559万2千円	12億2401万1千円
うち特別区税	405億7107万6千円	391億186万3千円	14億6921万3千円
うち特別区交付金	269億4860万3千円	266億4750万円	3億110万3千円
歳出総額 B	1300億2546万1千円	1288億4111万円	11億8435万1千円
形式収支(A)-(B) C	34億5414万2千円	34億1448万2千円	3966万円
翌年度に繰り越すべき財源 ※1 D	1億8981万5千円	3億3459万1千円	△1億4477万6千円
実質収支(C)-(D) E	32億6432万7千円	30億7989万1千円	—
単年度収支 ※2 F	1億8443万6千円	△8億7701万8千円	—
積立金 G	19億719万3千円	23億5414万7千円	△4億4695万4千円
積立金取り崩し額 H	18億円	35億円	—
実質単年度収支(F)+(G)-(H) I	2億9162万9千円	△20億2287万1千円	—
経常収支比率 ※3 J	86.5%	88.9%	△2.4ポイント

※1 明許繰越分(事業が終了せず翌年度に繰り越す事業費)

※2 実質収支から前年度の実質収支を差し引いた額

※3 区税などの経常的な収入が、人件費や施設の維持などの経常的支出にどれだけ充てられたかを示す比率。70%~80%が適正水準とされ、この比率が高くなるほど財政に余裕がないことを示します。

表2 一般会計の性質別経費(△は減)

区分	25年度		24年度		増減	
	決算額	構成比	決算額	構成比	増減額	増減率
義務的経費	704億円	54.2%	698億円	54.2%	6億円	1.0%
投資的経費	110億円	8.4%	92億円	7.1%	18億円	19.8%
その他経費	486億円	37.4%	499億円	38.7%	△13億円	△2.6%
合計	1300億円	100%	1288億円	100%	12億円	0.9%

※端数処理の関係で、合計数値や構成比が合わないことがあります。

表3 特別会計の財政収支

区分	国民健康保険特別会計	介護保険特別会計	後期高齢者医療特別会計
歳入歳出予算現額	361億7707万3千円	224億4889万7千円	62億6443万8千円
24年度比(増減率)	6億9920万円(2.0%増)	12億1301万3千円(5.7%増)	4322万2千円(0.7%増)
歳入決算額(収入率)	358億5631万8千円(99.1%)	210億638万4千円(93.6%)	60億7275万1千円(96.9%)
24年度比(増減率)	8億7855万2千円(2.5%増)	5億8573万6千円(2.9%増)	5263万7千円(0.9%増)
歳出決算額(執行率)	353億6609万5千円(97.8%)	204億3293万1千円(91.0%)	60億3348万4千円(96.3%)
24年度比(増減率)	7億6904万1千円(2.2%増)	4億1299万1千円(2.1%増)	3935万円(0.7%増)

●基金・区債の現在高(右表4)

区債の償還が進んだことで、区債現在高(区の借金)は15年連続で減少し、222億円になっている一方、25年度末の基金現在高は346億円です。区財政を取り巻く財政環境が厳しい中で将来にわたり安定した財政基盤を確保するには、より一層、効果的・効率的な財政運営が必要です。

表4 基金・区債の現在高(△は減)

項目	25年度末	24年度末	増減額
基金現在高	346億円	384億円	△38億円
区債現在高	222億円	243億円	△21億円

健全化判断比率

自治体の財政状況を早期に把握し、破綻を防ぐことを目的に制定された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」では、自治体財政の健全度を測る4つの指標(実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率)を定めています。

25年度決算では、4指標すべてで国の定める基準(早期健全化基準)を下回り、区の財政が健全であることを示しています。

健全化判断比率(△は減)

区分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
新宿区	—	—	△1.4	—
(参考) 早期健全化基準	11.25	16.25	25.0	350.0

※25年度決算は、すべての会計で実質収支が黒字となったため、実質赤字比率・連結実質赤字比率は算出されませんでした。また、区の借金の残高等よりも基金等区の将来負担額を解消する財源の方が多かったため、将来負担比率も算出されませんでした。